

## 東日本大震災災害医療チームに参加して

糸魚川市・真部外科医院

真部 一彦

4月末に災害医療チーム派遣の募集があり、都合を調整して3人チームで申し込んだところ、4月30日からの派遣が決定した。派遣決定後、事前の情報がほとんどない状態だった（ガイドラインは現地で他チームより頂き、初めてその存在を知った）が、前任者が予め連絡してくださり、随分助かった。現地は、既に40日以上が経過し、比較的落ち着いた状況だった。救護日誌とアセスメントシートの提出が毎日求められ、夕刻の日赤での全体ミーティング、毎朝のエリアミーティングで状況の確認とその日の段取り等が協議されて仕事にかかるといった毎日だった。これらは、3日ごとに毎回次任者に申し送られ、継続されていた事になる。発災直後にはその様にするしかなかったと思うが、一か月以上経過した時点では違和感があった。各チームで自己完結するのはかまわないが、それでは総括するはずの県医師会へは十分な情報が伝わっていないのではないか？また、

県医師会JMATとして派遣されているのだから、そのチームを支援する体制がもう少し何とかならなかったかと強く感じた。具体的には、連日の事務的手続きの支援や現地の状況を報告するために、医師会からの事務系職員の継続的な派遣が必要だったのではないか？派遣された多数のチームが医療救護に専念するためのみならず、その交代を円滑にし、また県医師会への情報の伝達のために是非必要な措置と思った。最終日の午後、担当理事の先生から状況確認の電話を頂いたが、三日ごとに電話をかけておられたのだろうか？事務員が日々状況を報告する様なシステムがあればその必要は全くなかったと思うし、救護班の増員や撤退などに関してもよりの確な判断が出来たのではないだろうか？今後、県医師会JMATは派遣のみならず派遣者支援や情報収集体制もきちんと構築する必要があると思われた。